

課題名 法面保護工の選定と種子配合等による発芽率の検証(中間報告)

機関名 北海道森林管理局 留萌北部森林管理署

所属 土木係長 星 雄介

1. 課題を取り上げた背景

北海道森林管理局留萌北部森林管理署は、95路線355kmの林道を管理しているところであるが、地質が脆弱であることまた北西の季節風が強いため法面の浸食や風化また、融雪や豪雨のたびに被災を繰り返しその都度修繕しているのが実態です。

このことから、工事の際法面に植生を繁茂させることによって法面表層部を根でしっかり縛り、雨水による浸食防止、地表面の温度変化の緩和ならびに凍上による表層崩落の抑制を図り、併せて緑化による景観の向上及び環境保全を目的とし、道内産野草を使用したところであります。

2. 試験区の考え方

試験区の配置は各試験区を並べて比較できる程度の法面を抽出して、種子吹き付け機の中で均等に種子等を混合する必要があるため200㎡以上の施工面積を確保し施工上無理のないように全体緑化を試験パターンごとに配分して全面自生種緑化とします。

(1) 試験区の設定

- ・これまでほぼ確実であると考えられるヨモギ主体の配合と今回試みるイネ科主体配合の2パターンについて検討。
- ・適正種子量を検討するため期待成立本数3パターン(500、1,500、3,000本/㎡)とする。

(2) 試験区の配置

- ・試験区A~Eとし、切土3面で5箇所607㎡、盛土で2面の4箇所674㎡の計1,281㎡とする。

3. 調査項目

- (1) 2種類以上の混播での比較
- (2) キク科とイネ科の混播での比較
- (3) 深根性と浅根性の混播での比較
- (4) 生育の早遅による混播での比較
- (5) 在来種と外来種の混播での比較

4. まとめ

今回は近年まれに見る度重なる豪雨に襲われその都度法面の修復に追われるなど法面緑化工事の発注が秋にずれ込んだため発芽まで至らず、配合種子を試験区に散布するのみとなり越冬させることになりました。

来春以降、本格的に調査項目としてあげた内容について調査をするものであり、その結果が今後の林道事業に生かされていくことが期待出来るものと考えています。